

考察 蝶について百分率の小さなものは口である。保育者の小なる事は忘却したということであり幼児のは無智な為描けなかったと思われる。蝶に興味を覚え、親近感を懐く最盛期は幼児期と思われる。この時期を逃さず拡大鏡を与え生きた蝶の形態を観察させると記録の保持度が高いと思われるし、科学教育の一助になると思われる。絵本は擬人化した絵より写実的な絵が良いと思われる。

対策 生物的方面、物理的方面、生理的方面と他方面に利用し、難しい理屈より正しい形態の構造を把握させ、いかにすれば興味を失わないようにできるか留意したいと思う。

幼児画の診断における 浅利説の意義とその限界

立命館大学 守屋光雄

目的 浅利自由想像画法を幼児におこなった場合の適中率について検討する。

結果 ① 浅利らの診断による幼児における適中率は、彼らが、年長児童についておこなった結果よりも低く、発達段階との関連が考えられる。② 浅利らが診断困難としたケースは、錯画や羅列画に多かった。③ ケースによって、高い適中率のみられるものもある。④ 投射指標は幼児においても、比較的適中率が高かったが、顔面投射、体軀投射、その他の何れとみるかについて、診断者間に判定のくい違いがみられた。⑤ 比較的適中率の高かったものとしては、父の象徴としての太陽や、母の象徴としての乗物と、それぞれ

れの色彩言語のように、出現数が多く、指標の判別が比較的容易で、且つ研究がすでに相当多く積みかさねられたものである。⑥ 紫色と疾病障害との関係は、一致度および不一致度高く示唆的であるが、必然的でない。⑦ このように、自由想像法による診断には限界がある。(第一表、第二表、第三表参照)

[Fig. I] アサリ診断法と諸調査との比較

性差	診断		計
	一致	不一致	
男	26 60.46%	24 52.18%	44
女	21 51.21	17 39.54	43
計	46 52.88	41 57.12	87

[Fig. II] アサリ診断指標別にみた頻数比較 (一致、不一致一覽表)

性差	指標			形			射		
	色		彩	態		疑	投		射
	一致	不一致		一致	不一致		一致	不一致	
男	20 51.29%	17 62.96	3 100.0	9 50.0	3 27.28	1 50.0	2 18.18	7 70.0	1 33
女	19 48.71	10 37.03		9 50.0	8 72.72	1 50.0	13 81.82	0 30.0	1 66
計	39 (56.52)	27 (39.13)	3 (4.33)	18 (57.07)	11 (36.13)	2 (6.8)	15 (62.5)	7 (29.19)	2 (8.17)

註 ()の%は全指数の全頻数に対する%である

[Fig III]

診断指標内容一覧表 ()は0

色 彩 熟 語												色 彩 単 語							項 目	標 指
黒緑	黒黄	黒青	青赤	黒白	黒褐	黒赤	赤緑	黒紫	黄緑	青白	黄土	黄	桃	桜	紫	赤	黒	白		
	(3)	1	1	1	2	3	(1)	1	(1)	1	(1)	(1)	1	1	9	2	1	(2)	1	一致
					2	1	1			2	2		1	(1)	(6)	6				不一致
			(2)	1		(1)							(2)		(5)	1				疑
									ナワトビ	階	虹	チェリリップ	木	髪	蝶	太陽	クラ	あり(船自動車)		項目
									(1)	1	(1)	(1)	(1)	(1)	(4)	3	(1)			一致度
																				一致
																				不一致
																				疑
																				一致
																				不一致
																				疑
																				一致
																				不一致
																				疑
																				一致
																				不一致
																				疑
																				一致
																				不一致
																				疑

保育者の自己評価表 (試案)

- A 保育者としての資質の評価
- (1) 外的資質
- 健康身体的に普きわめて5 4 3 2 1 不健康で病健康であり、気がちである。
 - 障害
 - 言語・音声
 - 態度
 - 姿勢
 - 容姿
- (2) 人格的特性
- 幼児に対する愛情
 - 明朗性
 - 若々しさ
 - 誠実
 - 信望
 - 寛容
 - 謙虚
 - 思慮
 - 公正
 - 情緒安定性
 - 協同性
 - 積極性
 - 創造性
 - 指導性
 - 奉仕
- (3) 能力・学識
- 一般知能 物事の理解が早い。知能がすぐれている。物わかりが遅い。知能が普通以下である。
 - 専門的知識技能
 - 教養
 - 計画性
 - 保育者としての自覚
 - 人生活(信念)
 - 教育者としての生活態度
 - 常識
 - 社会に対する関心
 - 趣味
- B 保育実績の評価
- (1) 職務の状況
- 保育目標への適合
 - 保育の目

- 標を正しく、十分に理解している。保育計画がそれに適合している。保育士がそれぞれ保育士としての目標を明確にしている。
- 園の目標への適合
 - 幼児の興味能力の考慮
 - その実態を理解しようとする力
 - 保育の計画
 - 保育の準備
 - 保育技術(イ)
 - 保育技術(ロ)
 - 臨機応変の処置
 - 個別指導への配慮
 - 教材の活用
 - しつけ
 - 幼児の理解・掌握
 - 保育の態度
 - 取扱いの公平さ
 - 幼児からの信頼
 - 両親からの信頼
 - 特殊幼児への配慮
 - 健康・安全への配慮
 - 環境の整頓美化
 - 評価法の適正
 - 評価結果の整理
 - 評価結果の利用
 - 家庭との連絡
 - 地域社会の連携
 - 保健指導
 - 研究の態度
 - 専門家の指導
 - 園務の処理
 - 帳簿・記録の作製・保管
 - 同僚間の連絡・協力
 - 秘密の厳守
- (2) 勤務状態
- 勤務態度 いつもきまり正しく勤務し、勤勉に職務に精励している。
 - 勤務を怠り保育に支障を生じることが多い
 - 時間
 - 欠勤
 - 遅刻早退

目的 ひとりひとりの保育者が、自分が果してよい保育者であるか否か、あるいは、よりよい保育者となるためには、いかなる点を改善する必要があるかについて、自己評価をおこなうための基準を設定する。

方法 「別表」のごとく、六七の項目について、それぞれ五段階の評定をおこない、各評価要素ごとく、および全体について、平均点を計算する。

保育者の自己評価法について

大阪樟蔭女子大学 西本 脩